

# ダクト発生 4 - 7 エリア間オープン

2007年 5月14日、5月16日 JG0TEV 中村

5月14日のダクト発生域 (推定)



朝～日中にかけてダクト発生による4～7エリア間オープン状態が確認されました。  
午前中から日中にかけては、日本海で冷たい海水温度と暖かい空気の温度との間で逆転層が形成されやすかったと考えます。

5月16日のダクト発生域 (推定)



日中から夕方にかけて9～7エリア間オープン状態が確認されました。  
東日本を中心に高気圧に覆われて、冷たい海水温度と暖かい気温との間でダクト発生条件がそろいやすくなったと考えます。

## 気象解析

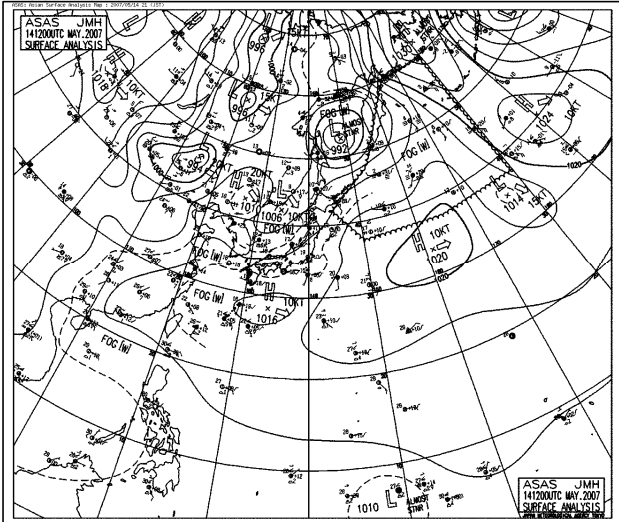
地上天気図をみると14日、16日のいずれも日本付近は高気圧に覆われている状態ではありません。

西から気圧の谷が接近している状態にダクトが発生しています。

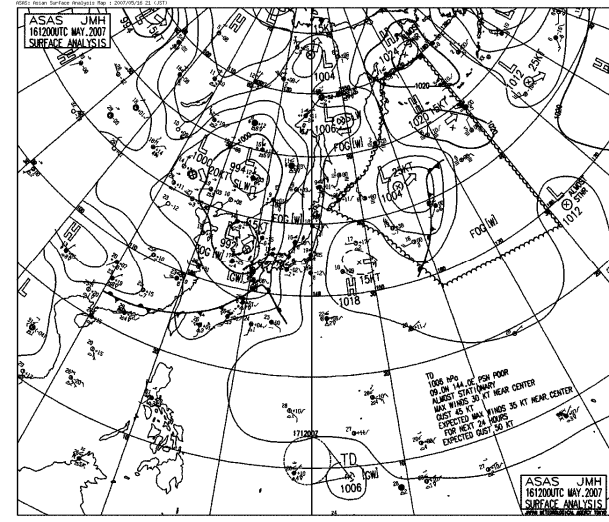
850hpa面解析図からリッジは見られず高度は高くはなっていませんが、湿数が10度以上と高く上空に乾燥空気が流れ込んでいることがわかります。

## 地上天気図

14日21時

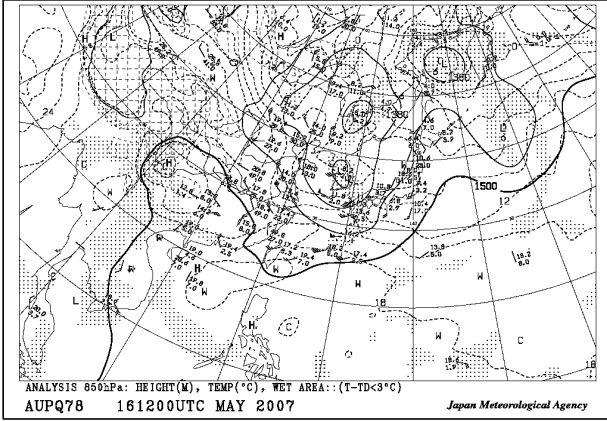
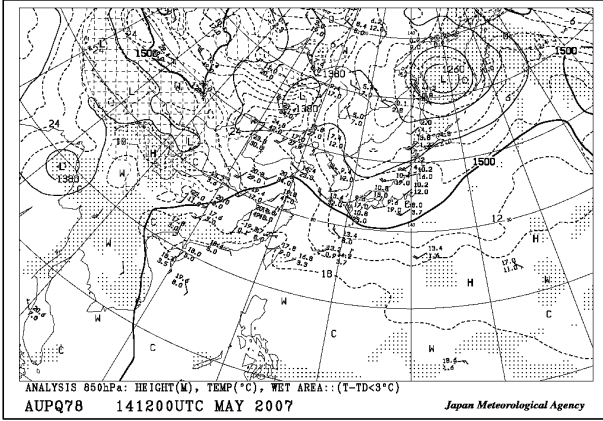


16日21時



850hpa面高度・気温・湿数  
14日21時

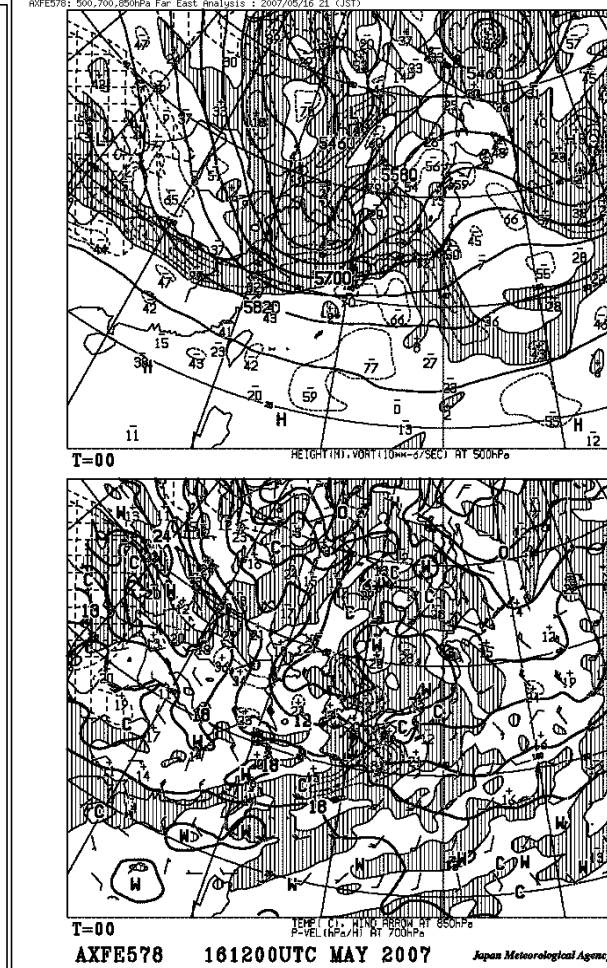
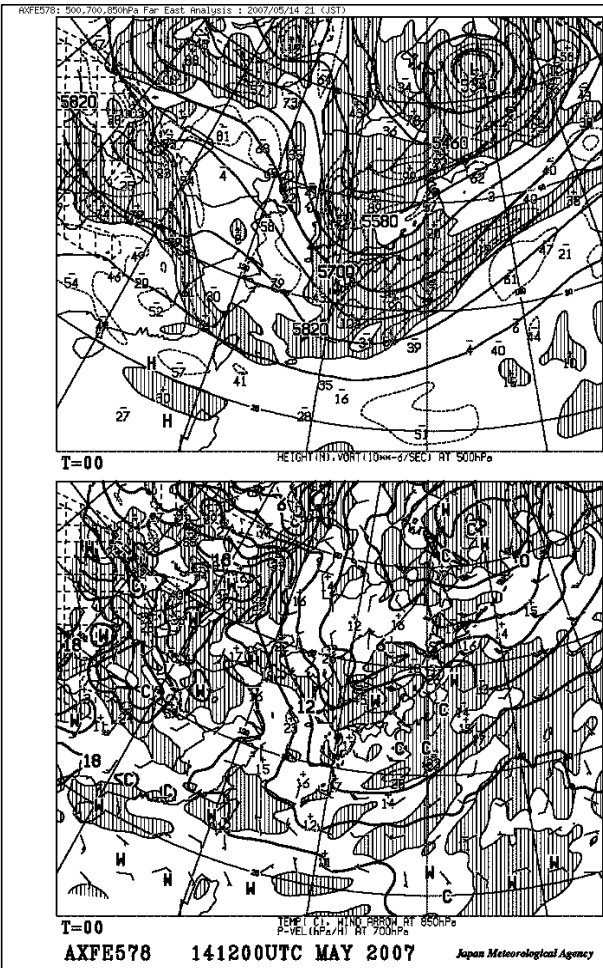
16日21時



500hpa面解析図から、14日、16日のいずれもトラフ前面の正渦度領域に覆われていることがわかります。  
700hpa面解析図から、日本付近は暖気移流に対応して上昇流域に広く覆われていたことがわかります。  
一方、海水面温度は低く日本海中部の海面温度が 10 ~ 15 前後であるのに対して気温は上昇して新潟市で海面温度より 7 ~ 10 以上高くなったことがわかります。  
気圧の谷の前面に位置していることで日本海では南から南西よりの風が一樣にふいたことで冷たい海面とあたたかい気温との間に逆転層が形成されたものと推定します。  
エマグラムを見ると実線の最下層もしくはそのさらに下に逆転層が形成されていたものと推定できます。

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温  
14日21時

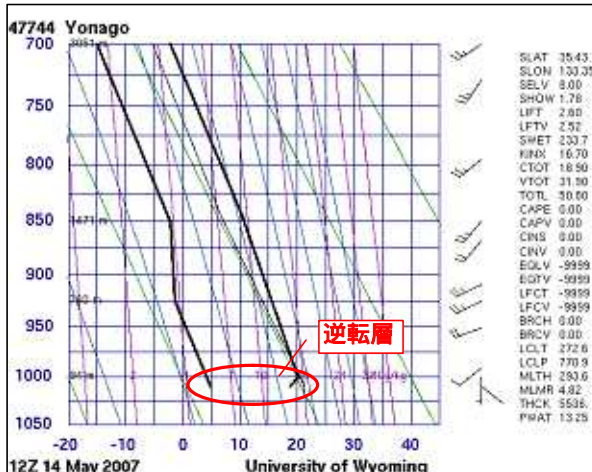
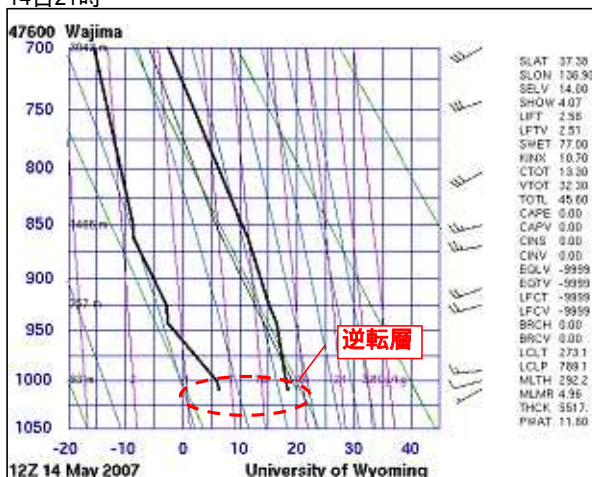
16日21時



【参考】 赤外線雲画像  
14日21時



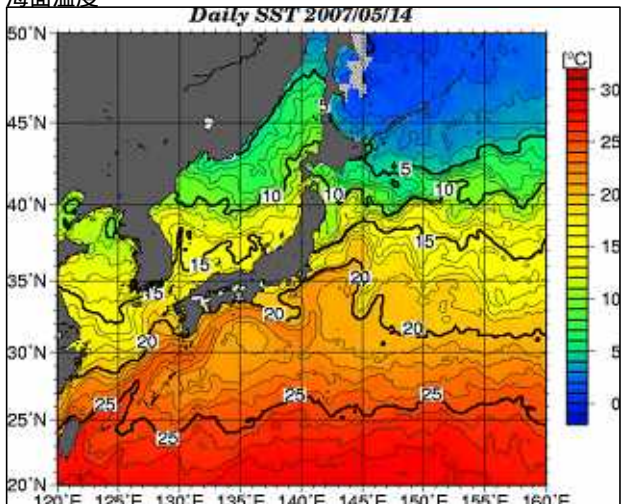
【参考】 エマグラム  
14日21時



16日21時



海面温度



5月14日の最低・最高気温

	天気(9時)	最低気温	最高気温
札幌	晴	8.4	15.9
仙台	快晴	9.9	20.8
新潟	快晴	10.6	25.8
東京	曇	15.7	21.2
名古屋	曇	10.7	24.8
大阪	曇	13.3	26.3
広島	晴	10.4	25.4
高知	曇	12.9	25.2
福岡	快晴	13.5	24.4
那覇	曇	22.1	23.1

日本海ダクトが発生した14日は、新潟市の最高気温25.8 が海面温度14 より10以上高くなっていた

5月16日の最低・最高気温

	天気(9時)	最低気温	最高気温
札幌	曇	10.1	20.5
仙台	快晴	9.1	19.2
新潟	快晴	11.9	21.3
東京	快晴	15.7	22.9
名古屋	曇	12.0	22.5
大阪	曇	13.2	24.0
広島	曇	13.8	21.1
高知	曇	15.5	23.0
福岡	曇	18.1	22.3
那覇	曇	22.7	27.3

日本海ダクトが発生した14日は、新潟市の最高気温21.3 が海面温度14 より7以上高くなっていた